

〈論文〉

## リトアニア語のアスペクトとパーフェクト —ロシア語との対照アスペクト論的観点から—

櫻井 映子

### 1. はじめに\*

リトアニア語は、アスペクト表示機能を担う接頭辞・接尾辞をもち、主に形態論的な手段によりテンス・アスペクト体系を構成するという点で、ロシア語と共通する。だが、2つの言語の動詞アスペクトには本質的な違いがある。本稿は、ロシア語との相違点に着目しつつ、リトアニア語のアスペクトとパーフェクトを適切に特徴づけることを目的とする。

まず、本稿の議論の基礎となる概念を説明しておく。筆者は、アスペクトを意味論的カテゴリーと捉え、完了(完結)相 *perfective* を「ひとまとまりの、単一の全体としての場面の捉え方」、不完了(不完結相) *imperfective* を「内的時間構成をはっきりさせる、部分としての場面の捉え方」とする、最も一般的な定義を採用する(Comrie 1976)。また本稿では、次の略号を用いる: PFV.=perfective; IPFV.=imperfective.<sup>1</sup> なお、ロシア語の動詞アスペクトの対については、慣例に従って、完了体・不完了体動詞という用語を用い、意味論的な〈PFV./IPFV.〉の概念と区別する。また、本稿では、リトアニア語の動詞アスペクトの特徴を説明する際に、限界/非限界 *telic/atelic* (*bounded/nonbounded*) 動詞という用語を用いている。Dahl (1981) をはじめ一般アスペクト論における規定では、限界動詞とは、語彙的に限界をもともと含み、それに向かってゆく場面を表す動詞であり、非限界動詞は、

\* この論文の一部は、2009年1月31日に東京外国語大学で開催された木二会において発表したものである。貴重な助言を下された参加者の方々に厚くお礼を申し上げる。また、大変有益な指摘とコメントを下された3名の査読者の方にも心より感謝申し上げたい。本研究のアンケート調査は、2007~2008年度日本学術振興会科学研究費補助金(特別研究員奨励費)の補助を得ておこなわれた。調査の場を提供するとともにリトアニア語のインフォーマントとして多くの貴重な情報を提供して下さいました Ramutė Bingelienė, Karolis Januševičius, Zita Mažuolienė, Aldona Paulauskienė, Renata Petroškevičienė, Joana Pribušauskaitė, Elena Urbanavičiūtė, Aurelijus Zykas (アルファベット順)の各氏を始め、調査に協力して下さいました方々にこの場をお借りして感謝の意を表したい。

<sup>1</sup> 本稿で用いるその他の略号は以下の通りである: ACC accusative (対格); ACT. active (能動態); ADJ adjective (形容詞); ADJ. adjectival (形容詞的); F feminine (女性); FUT future (未来); GEN genitive (属格); HABIT. habitual (習慣相); Lith. Lithuanian (リトアニア語); M masculine (男性); N neuter (中性); NOM nominative (主格); PF perfect (パーフェクト); PP past participle (過去分詞); PREF prefix (接頭辞); PRES present (現在); PRO pronoun (代名詞); Russ. Russian (ロシア語); SG singular (単数); SUFF suffix (接尾辞); V verb (動詞)。なお、例文中の括弧[ ]は、省略可能であることを示す。例文は、基本的に筆者が作成して、ネイティブ・スピーカーによるインフォーマント・チェックを受けたものである。

そのような限界を含まず、また必要としない場面を表す動詞である。この狭義の規定による限界／非限界動詞は他の用語では目標／非目標動詞に相当する。それに対して、筆者は、限界／非限界動詞という用語をより広義に用いる。すなわち、限界動詞を、始め、終わり、または始めと終わりの両側に限界を含む動詞、一方、非限界動詞を、始めおよび終わりの両側とも限界を含まない動詞と定義する。

また、パーフェクト perfect は、ある先行する場面がひきつづき後続する場面は何らかの結果・効力を残していることを意味し、先行する時間面と後続する時間面の関係を表わす複合的なテンス・アスペクト・カテゴリーとする。本稿では Maslov (1962) と同様にパーフェクトを広義にとらえ、Nedjalkov (1988)らの用語による結果相 resultative／本来的パーフェクト perfect proper を、それぞれ、状態パーフェクト／動作パーフェクト stative / actional perfect と呼ぶ。意味論的なパーフェクトの規定は、典型的には、先行する限界的な動作の〈完成性〉と、その動作の結果・効力の〈持続性〉の両方を含むことである。本稿では、これを〈結果〉のパーフェクトと呼ぶ。また、先行する動作が非限界的ならば、その動作の〈全一性（ひとまとまり性）〉と動作の効力の〈持続性〉を表す。ここでは、これを〈経験・不定〉のパーフェクトと呼ぶ。<sup>2</sup> この2タイプはいわゆる動作パーフェクトである。一方、状態パーフェクトは、動作の達成時点を開始点とする結果の状態の〈持続性〉をもっぱら表す。動作パーフェクトは〈先行性（＋同時性）〉、状態パーフェクトは〈同時性（＋先行性）〉という、それぞれ複合的なタクシス<sup>3</sup>と結びついている。テンス的には、〈先行する時間＋後続する時間〉の両方を表すことがパーフェクトの特徴で、現在パーフェクトは〈過去＋現在〉、過去パーフェクトは〈先行する過去＋後続する過去〉を表す。

本稿は、次のように構成されている。まず、2章でリトアニア語とロシア語の動詞アスペクトの本質的な違いについて概説する。さらに、3章でこれら2つの言語の基本的テンス・アスペクト体系を示し、それぞれのアスペクトとテンスの関係性について考察する。続く4章で2つの言語のパーフェクトの表現を比較対照する。5章では筆者がリトアニアで実施したアンケート調査の概要を示し、6章でその結果を基にリトアニア語のいわゆる分析的なパーフェクト形（コンピュータ動詞 būti＋過去能動分詞主格形）と単純過去形の使用分布を分析する。最後に7章で全体をまとめ、今後の展望を述べる。

<sup>2</sup> なお、リトアニア語のパーフェクト形は、英語などにみられる存続する場面のパーフェクト（例。We've lived here for ten years ‘私たちはここに10年住んでいる’）を表さない。また、スペイン語などにみられる近接過去のパーフェクト（例。la he visto esta mañana ‘私は彼女を今朝見た’）の用法も一般的ではない。

<sup>3</sup> タクシスの規定は「連鎖的な複数の事象間における相関的時間関係」とする。

## 2. 動詞Aspect

リトアニア語等のバルト諸語は、Aspect的な意味を伝える上で、動詞の接頭辞に強く頼っている諸言語に属している。ロシア語等のスラヴ諸語と同様に、Aspect表示機能をもつ接頭辞・接尾辞を用いた動詞Aspectの体系の発達がみられる。表1を参照されたい。

表1：ロシア語とリトアニア語のAspect的な動詞の対

	ロシア語	リトアニア語
①(a)完了・終了 ‘する’	делать — с-делать	daryti — pa-daryti
(b)始発 ‘演奏し始める’	играть — за-играть	griežti — už-griežti
(c)時間制限 ‘少しの間働く’	работать — по-работать	dirbti — pa-dirbti
(d)一回・瞬間 ‘一回キスする’	целовать — по-целовать	bučiuoti — pa-bučiuoti
②語義の転換 ‘書き抜く’	писать — вы-писать	rašyti — iš-rašyti
③反復・継続 ‘複数回書き抜く’	вы-писать — вы-пис-ыва-ть	iš-rašyti — iš-raš-inė-ti

このような外見的な類似性は、リトアニア語の動詞Aspectに関する正確な理解の妨げとなってきた。まず、伝統文法(LKG, DLKG, LG)を始めとする、従来のリトアニア語の動詞Aspectに関する研究においては、ロシア語等のスラヴ諸語の動詞Aspectと同一視する立場(いわゆる「完了体動詞」「不完了体動詞」等、ロシア語と同一の用語を使用)が一般的であった。一方で、リトアニア語の動詞Aspectをロシア語と比較してより未発達なものと主張する立場もあるが(Musteikis 1972, Wiemer 2001)、いずれにしても、内容的(機能意味論的)な面でのリトアニア語とロシア語の本質的な相違については、これまで殆ど論じられていない。また、従来のリトアニア語Aspect研究は、研究の対象を主に接頭辞の有無によって示される動詞Aspectの対に限っており、テンス形式に含み込まれたAspectについては言及していない。

だが、筆者が過去の論文(櫻井 1997, 1999, 2002, 2003, 2007, Sakurai 2008)において示してきたように、リトアニア語とロシア語の動詞Aspect、および、そのテンスとの関係には、主に次のような重要な相違がある。

- i) リトアニア語では動詞のAspect的な対の多くは、より語彙的な(限界的: 非限界的 telic : atelic (bounded : nonbounded)) 意味において対立するものであって、ロシア語のより文法化された、(perfective : imperfective) にほぼ相当する、いわゆる完了体: 不完了体の対とはかなり異なっている。

- ii) 動詞アスペクトの対の内容におけるこの二つの類型は、バルト・スラヴ諸語の動詞アスペクトの共時的分布および通時的発達において連続体として観察される。
- iii) リトアニア語では、ロシア語ほど動詞アスペクトが発達しておらず、そのために、ロシア語に比べてテンス形式のアスペクト的な意味内容がより具体的であると同時にその機能負担量もより大きい。このように、アスペクトの体系には、動詞アスペクトとテンス形式の相関性および機能負担量の反比例性が認められる。

つまり、ロシア語では、動詞は基本的にアスペクト的な対（いわゆる完了体動詞：不完了体動詞）をなして現れ、これが一般アスペクト論の規定する *perfective : imperfective* の意味をほぼ充足していると考えられる。それに対し、リトアニア語では、アスペクト的な接頭辞や接尾辞の付加は、多くの場合、動詞の語彙的（辞書的）意味をも変更し、一定の意味特徴を共有する派生動詞の（いわゆる *aktionsart*）グループを形成する。リトアニア語で従来 *perfective : imperfective*（以下、PFV. : IPFV.）対と見なされている動詞の対の多くは、限界的：非限界的な対と呼ぶべきものであり、限界動詞と非限界動詞の間は連続的である。リトアニア語の動詞アスペクトは、ロシア語のように全体的な二項対立はなさず、語彙部門と文法部門の間にあるカテゴリーとして位置づけられる。これと関連して、リトアニア語では、意味論的な〈PFV. : IPFV.〉の区別は、ふつう動詞アスペクトとテンス形式との組み合わせによって表し分けられる。

### 3. 基本的テンス・アスペクト体系

リトアニア語の文法的なテンス形式は、ロシア語よりも豊富である。ロシア語のテンス形式が、現在形 *пишет*（以下、例は「書く」3人称男性単数形）、過去形 *писал*、複合未来形 *будет писать*（および完了体動詞の場合の単純未来形 *на-пишет*）というより単純なものであるのに対して、リトアニア語のテンス形式には、単純テンスの現在形 *rašo*、過去形 *rašė* と習慣過去形 *rašydavo*、未来形 *rašys* があり、<sup>4</sup> さらに、コンピュータ動詞 *būti* + 過去能動分詞主格形（過去語幹に語尾-ęs（男性単数）、-usi（女性単数）、-ę（男性複数）、-usios（女性

<sup>4</sup> 単純テンスには人称・数による活用があり、主語と文法的に一致する（ただし、3人称には数の区別がない）。なお、筆者は、単純テンスの伝統的に一回的過去形と呼ばれる基本的な過去形を単に過去形と呼ぶ。また、伝統的に多回的過去形と呼ばれるインパーフェクト形（接尾辞-dav-を伴う）を習慣過去形と呼ぶ。このアスペクト的に有標な過去テンスは、伝統的に多回相 *frequentative* とみなされているが、常に頻発的な場面を表すものではなく、とくに回数を限定した多回的動作を表すことはできない。反復相 *iterative* という術語も用いられるが、動詞の意味によっては過去の限定されない時期の持続的な状況を示すこともある（*Jis mylėdavo žmones* ‘彼は人々を愛したものだ’）ため、筆者は Comrie (1976) の術語である習慣相 *habitual* を採用する。

複数)を付加して形成)から成る,いわゆる分析的なパーフェクトの各時制形,すなわち,現在/過去/習慣過去/未来パーフェクト形 *yra / buvo / būdavo / bus rašęs* がある.<sup>5</sup>

2つの言語の基本的テンス・Aspect体系は表2と表3のようにまとめられる。

表2: ロシア語の基本的テンス・Aspect体系

(パーフェクト)		
Aspect	(PFV.)	(IPFV.)
テンス	完了体動詞	不完了体動詞
未来	未来形	複合未来形
現在	—	現在形
過去	過去形	過去形

表3: リトアニア語の基本的テンス・Aspect体系

(パーフェクト)			(分析的パーフェクト)	
Aspect	(PFV.)		(IPFV.)	
テンス	限界動詞	←→	非限界動詞	未来パーフェクト形
未来	未来形	—	未来形	現在パーフェクト形
現在	—		現在形	過去パーフェクト形
過去	過去形	—	過去形	
+				
(習慣相)				
習慣過去形			習慣過去パーフェクト形	

2つの言語のテンスとAspectの基本的関係は,主に (IPFV.)である現在テンス, (PFV.) (IPFV.) どちらもある過去および未来テンスをもつ点では同じであるが,次のよ

<sup>5</sup> 分析的なテンス形式においては,コピュラ動詞 *būti* は主語の人称・数と文法的に一致し,分詞は主語の性・数に一致する.コピュラ動詞 *būti* の現在形は,話し言葉ではしばしば省かれる.とくに3人称現在形の *yra* は言わない方が自然である.

*Jis jau [yra] mir-ęs.*

彼.3M.SG.NOM すでに [be]死ぬ.PRES.PF.3.M.SG ([be.PRES.3] 死ぬ.ACT.ADJ.PP.M.SG.NOM)

‘彼はすでに死んでいる.’

なお,リトアニア語にはさらに伝統的に始発テンスと呼ばれる分析的形式(コピュラ動詞 *būti* + 接頭辞 *be-*を付加された現在能動分詞主格形)があるが,現在では他のテンス形に比べて著しく使用頻度が低いため,ここでは基本的なテンス・Aspect体系には含めない。

うな2点(1), 2))で異なる.

- 1) ロシア語では, 不完了体動詞の現在と完了体動詞の未来の間に形態論的な平行性が見られ, 完了体動詞は<IPFV.>の現在を表さない. それに対して, リトアニア語には, 動詞アスペクトの違いに関わらず用いられる単純テンスの未来形がある. リトアニア語の伝統文法で PFV.アスペクトとみなされている多くの有接頭辞動詞, および, 双アスペクト動詞とみなされている動詞(例. at-eiti ‘(歩いて)来る’, laimėti ‘勝つ’, mirti ‘死ぬ’)は, いずれも, 一般的な過去形・未来形では<PFV.>, 現在形では<IPFV.>の意味をもつ. これらの動詞は, 実際には, 限界動詞である(例(1)~(3)). リトアニア語では, 現在形は, 若干の有接頭辞動詞(例. pa-daryti ‘する, 作る’, pa-rašyti ‘書く’)の場合を除いて, ふつう反復性(習慣性)のみならずアクチュアルな進行性をも表す. 過去形については例文(4), 未来形については例文(5), 習慣性を表す現在形については例文(6), 進行性を表す現在形については例文(7)と(8)を参照.
- 2) リトアニア語のより周延的なテンス形式である, 単純テンスの習慣過去形, 分析的なパーフェクト形(以下, 単に「パーフェクト形」と呼ぶ)に相当する特別なテンス形式はロシア語にはなく, 基本的なテンス形式と動詞アスペクトの組み合わせがそれらに相当する機能をもつ(例(9)と(10)). リトアニア語の習慣過去形については例文(11)と(12), パーフェクト形については例文(13)と(14)を参照.

(1) Russ. на-писал / на-пишет (на-писать (PFV.))

PREF-書く.PAST.M.SG/PREF-書く.FUT.3SG

Lith. pa-rašė / pa-rašys / pa-rašo (pa-rašyti (TELIC))

PREF-書く.PAST.3 / PREF-書く.FUT.3/PREF-書く.PRES.3

‘書いた/書くだろう/ (Lith.) 書いている (反復性)’

— пишет (писать (IPFV.))

— 書く.PRES.3SG

— rašo (rašyti (ATELIC))

— 書く.PRES.3

‘書いている (反復性・進行性)’

(2) Russ. при-шел / при-дет (при-йти (PFV.))—при-ходит (при-ходить (IPFV.))

PREF-来る.PAST.M.SG/PREF-来る.FUT.3SG —PREF-来る.PRES.3SG

Lith. at-ėjo / at-eis / at-eina (at-eiti (TELIC))

PREF-来る.PAST.3/PREF-来る.FUT.3 / PREF-来る.PRES.3

‘来た/来るだろう/来ている (反復性)・(Lith.) 来るところだ (進行性)’

(3) Russ. умер / умрет (умереть (PFV.))—умирает (умирать (IPFV.))

死ぬ.PAST.M.SG/死ぬ.FUT.3SG —死ぬ.PRES.3SG

Lith. mirė / mirs / miršta (mirti (TELIC))

死ぬ.PAST.3 / 死ぬ.FUT.3 / 死ぬ.PRES.3

‘死んだ/死ぬだろう/死んでいる (反復性・進行性)’

(4) Russ. Он уже написал письмо и пришел на почту.

彼.3M.SG.NOM すでに 書く.PAST.M.SG 手紙.ACC そして 来る.PAST.M.SG 郵便局へ

Lith. Jis jau parašė laišką ir atėjo į paštą.

彼.3M.SG.NOM すでに 書く.PAST.3 手紙.ACC そして 来る.PAST.3 郵便局へ

‘彼はすでに手紙を書いて (書き終えて), 郵便局へ来た.’

(5) Russ. Он еще не написал письма.

彼.3M.SG.NOM まだ 書かない.PAST.M.SG 手紙.GEN

Lith. Jis dar neparrašė laiško.

彼.3M.SG.NOM まだ 書かない.PAST.3 手紙.GEN

Скоро напишет и придет на почту.

もうすぐ 書く.FUT.3SG そして 来る.FUT.3SG 郵便局へ

Tuoj parašys ir ateis į paštą.

もうすぐ 書く.FUT.3 そして 来る.FUT.3 郵便局へ

‘彼はまだ手紙を書いていない。もうすぐ書いて, 郵便局へ来る.’

(6) Russ. Он каждый день пишет письмо и

彼.3M.SG.NOM 毎日 書く.PRES.3SG 手紙.ACC そして

Lith. Jis kasdien rašo laišką ir

彼.3M.SG.NOM 毎日 書く.PRES.3 手紙.ACC そして

приходит на почту.

来る.PRES.3SG 郵便局へ

ateina į paštą.

来る.PRES.3 郵便局へ

‘彼は毎日手紙を書いて, 郵便局へ来る (来ている).’

(7) Russ. Он сейчас пишет письмо.

彼.3M.SG.NOM 今 書く.PRES.3SG 手紙.ACC

Lith. Jis dabar rašo laišką.

彼.3M.SG.NOM 今 書く.PRES.3 手紙.ACC

‘彼は今手紙を書いている.’

(8) Russ. Он еще не пришел.  
彼.3M.SG.NOM まだ 来ない.PAST.M.SG

Lith. Jis dar neatėjo.  
彼.3M.SG.NOM まだ 来ない.PAST.3

... Ой, посмотри, он идет сюда.  
おや 見て 彼.3M.SG.NOM 行く.PRES.3SG ここへ

... Oi, pažiūrėk, jis ateina čia.  
おや 見て 彼.3M.SG.NOM 来る.PRES.3 ここへ

‘彼はまだ来ていない。…おや、見て、彼がこちらへ来る (ところだ) よ.’

(9) Russ. вы-играл (вы-играть (PFV.))—вы-игр-ыва-л (вы-игр-ыва-ть (IPFV.))  
PREF-勝つ.PAST.M.SG — PREF-勝つ-SUFF-PAST.M.SG

Lith. laimėjo / laimėdavo (laimėti (TELIC))  
勝つ.PAST.3 / 勝つ.HABIT.PAST.3

‘勝った／勝ったものだ (習慣性)’

(10) Russ. на-писал (на-писать (PFV.))  
PREF-書く.PAST.M.SG

Lith. pa-rašė / [yra] pa-rašęs / buvo pa-rašęs (pa-rašyti (TELIC))  
PREF-書く.PAST.3/[be]PREF-書く.PRES.PF.3.M.SG/be PREF-書く.PAST.PF.3.M.SG

‘書き終えた／書き終えている／書き終えていた’

(11) Russ. Он каждый день приходил сюда, будучи студентом.  
彼.3M.SG.NOM 毎日 来る.PAST.M.SG ここへ 学生だった頃

Lith. Jis kasdien ateidavo čia, būdamas studentas.  
彼.3M.SG.NOM 毎日 来る.HABIT.PAST.3 ここへ 学生だった頃

‘彼は学生だった頃、毎日ここへ来ていた (来たものだ).’

(12) Russ. Он всегда сидел у окна.  
彼.3M.SG.NOM いつも 座る.PAST.M.SG 窓際に

Lith. Jis visada sėdėdavo prie lango.  
彼.3M.SG.NOM いつも 座る.HABIT.PAST.3 窓際に

Дома было хорошо.  
家で be.PAST.N.SG よい.ADJ.N.SG



Namie būdav gera.

家で be.HABIT.PAST.3 よい.ADJ.N.SG

‘彼はいつも窓際に座っていた (ものだ). 家は (気分が) よかった (ものだ).’

(13) Russ. Он уже давно устал.

彼.3M.SG.NOM すでに ずっと (前から) 疲れる.PAST.M.SG

Lith. Jis jau seniai [yra] pavargęs.

彼.3M.SG.NOM すでに ずっと (前から) [be] 疲れる.PRES.PF.3.M.SG

‘彼はもうずっと (前から) 疲れている.’

(14) Russ. Он уже давно написал письмо.

彼.3M.SG.NOM すでに ずっと (前から) 書く.PAST.M.SG 手紙.ACC

Lith. Jis jau seniai buvo parašęs laišką.

彼.3M.SG.NOM すでに ずっと (前から) be 書く.PAST.PF.3.M.SG 手紙.ACC

‘彼はもうずっと (前から) 手紙を書き終えていた.’

#### 4. パーフェクトの表現

以上に概説したロシア語とリトアニア語の動詞アスペクトおよび基本的テンス・アスペクト体系における相違点を踏まえて、本章では、これら2つの言語のパーフェクトの表現について考察する。リトアニア語のパーフェクト形は、1) 単なる状態、2) 状態パーフェクト、3) 動作パーフェクト、4) 単なる動作を内容とする。これらの意味は連続的である。<sup>6</sup> 一方、ロシア語の完了体/不完了体動詞は、パーフェクトを表すという点では、明らかに、一般アスペクト論で規定される (PFV.: IPFV.) の意味機能におさまらない内容をもつ。だが、ロシア語では、状態パーフェクトにつながる単なる状態の意味は、ふつう、能動の動詞のテンス形式によっては表されない。それに対して、リトアニア語のパーフェクト形は、語彙的制限なく形成され、この連続体の内容をすべて含みこんでいる。以下、ロシア語と対照しつつ、リトアニア語のパーフェクト形の表す意味内容について、4.1 節で状態の表示、4.2 節で状態パーフェクト、4.3 節で動作パーフェクト、4.4 節で相対的テンス、4.5

<sup>6</sup> このパーフェクトの共時的な意味の複合体は、Maslov (1984)の提示したパーフェクトの歴史的な発展の推移に重なる。つまり、もともとは単なる状態を表した形式が、状態および動作パーフェクトを経て、次第にパーフェクトの意味を失い、単なる動作を表す過去形に変化するという現象が、通言語的にしばしば観察される (例. フランス語, ロシア語)。Bybee, Perkins & Pagliuca (1994) も同様の立場から、文法化の過程の仮説を次のように提示している。

be/have → resultative → anterior (perfect) → perfective/simple past  
 ↘ inference from result → indirect evidence

節で動作の表示の順に検討し、4.6で全体をまとめる。

#### 4.1. 状態の表示

リトアニア語では、限界動詞のパーフェクト形は、単なる状態の意味をもつことがある。これは過去分詞の形容詞的な用法で、パーフェクトとの違いは、代名詞や形容詞をとまなう場合により明らかになる。ロシア語では、このような場合、ふつう形容詞が用いられる。例文(15), (16)を参照。

- (15) Russ. Он **слишком много работает,** **поэтому такой**  
 彼.3M.SG.NOM あまりに.沢山 働く.PRES.3SG だから あんなに.PRO.M.SG.NOM  
 Lith. Jis **per daug dirba,** **todėl toks**  
 彼.3M.SG.NOM あまりに.沢山 働く.PRES.3 だから あんなに.PRO.M.SG.NOM  
 худой, **бледный.**  
 やせている.ADJ.M.SG.NOM 青ざめている.ADJ.M.SG.NOM  
 liesas, **[yra] išbales.**  
 やせている.ADJ.M.SG.NOM [be] 青ざめる.PRES.PF.3.M.SG  
 ‘彼はあまりに沢山働いている、だからあんなにやせて、青ざめている。’

- (16) Russ. Посмотри, какой он **уже старый** и  
 見なさい どんなに 彼.3M.SG.NOM **すでに 老いた.ADJ.M.SG.NOM** そして  
 Lith. Pažiūrėk, koks jis **jau senas** ir  
 見なさい どんなに 彼.3M.SG.NOM **すでに 老いた.ADJ.M.SG.NOM** そして  
**усталый.**  
 疲れている.ADJ.M.SG.NOM  
**[yra] pavargęs.**  
 [be] 疲れる.PRES.PF.3.M.SG  
 ‘見なさい、彼がすでにどんなに老いて疲れているか。’

#### 4.2. 状態パーフェクト

状態パーフェクトを表す述語には、限界的な持続を意味する状況語が共起する。ロシア語では、完了体動詞の過去形あるいは過去受動分詞（いわゆる被動形動詞過去短語尾形）を用いてこれを表す。リトアニア語では、限界動詞のパーフェクト形あるいは単純過去形が状態パーフェクトを表す。例文(17), (18)を参照。

- (17) Russ. Он **уже давно умер.**  
 彼.3M.SG.NOM **すでにずっと前から 死ぬ.PAST.M.SG**

Lith. Jis jau seniai {[yra] miręs / mirė}.  
 彼.3M.SG.NOM すでにずっと前から [be] 死ぬ.PRES.PF.3.M.SG / PAST.3  
 ‘彼はすでにずっと前から死んでいる.’

(18) Russ. Когда я наконец вернулся в Вильнюс,  
 ~時 私.1SG.NOM ついに 帰る.PAST.M.SG ヴィリニユスに

Lith. Kai aš pagaliau grįžau į Vilnių,  
 ~時 私.1SG.NOM ついに 帰る.PAST.1SG ヴィリニユスに  
 он уже умер.  
 彼.3M.SG.NOM すでに 死ぬ.PAST.M.SG

jis jau {buvo miręs / mirė}.  
 彼.3M.SG.NOM すでに be 死ぬ.PAST.PF.3.M.SG / PAST.3

‘私がついにヴィリニユスに帰った時、彼はすでに死んでいた.’

#### 4.3. 動作パーフェクト

##### 4.3.1. 〈結果〉のパーフェクト

動作パーフェクトを表す述語には、点的な状況語が共起する。〈結果〉のパーフェクトは、ロシア語では完了体動詞によって表される。リトアニア語では、限界動詞のパーフェクト形あるいは単純過去形によって表される。例文(19), (20)を参照。

(19) Russ. Он задернул занавески,  
 彼.3M.SG.NOM 閉める.PAST.M.SG カーテン.ACC

Lith. Jis {[yra] užtraukęs / užtraukė} užuolaidas,  
 彼.3M.SG.NOM [be] 閉める.PRES.PF.3.M.SG / PAST.3 カーテン.ACC

видно, спит.  
 たぶん 眠る.PRES.3SG

matyti, miega.  
 たぶん 眠る.PRES.3

‘彼はカーテンを閉めている、たぶん眠っているのだ。’

(20) Russ. A: - Томас и Она здесь?  
 トマス.M.SG.NOM と オナ.F.SG.NOM ここに

Lith. A: - Ar Tomas ir Ona yra?  
 ~か トマス.M.SG.NOM と オナ.F.SG.NOM be.PRES.3

B: - Да, Томас пришел уже час назад.  
 うん トマス.M.SG.NOM 来る.PAST.M.SG すでに 1時間前に  
 B: - Taip, Tomas {[yra] atėjęs / atėjo} jau prieš valandą.  
 うん トマス.M.SG.NOM [be] 来る.PRES.PF.3.M.SG/PAST.3 すでに 1時間前に  
 Он сейчас у меня в комнате.  
 彼.3M.SG.NOM 今 私の部屋に  
 Jis dabar [yra] mano kambaryje.  
 彼.3M.SG.NOM 今 [be.PRES.3] 私の部屋に  
 A Она только что пришла.  
 それで オナ.F.SG.NOM たった今 来る.PAST.F.SG  
 O Она atėjo ką tik.  
 それで オナ.F.SG.NOM 来る.PAST.3 たった今

A: ‘トマスとオナはいる?’

B: ‘うん、トマスはもう 1時間前に来ている。彼は今、私の部屋にいる。それで、オナはたった今来たばかりだ。’

なお、継続した結果の状態が中断したということを表す場合（可逆的な意味をもつ動詞に特徴的である）、ロシア語では不完了体動詞の過去形を用い、リトアニア語では限界動詞の過去パーフェクト形あるいは単純過去形を用いる。例文(21)を参照。

(21) Russ. Он приезжал к нам вчера.  
 彼.3M.SG.NOM 来る.PAST.M.SG 私たちのところに 昨日  
 Lith. Jis {buvo atvažiuoęs / atvažiavo} pas mus vakar.  
 彼.3M.SG.NOM be 来る.PAST.PF.3.M.SG/PAST.3 私たちのところに 昨日  
 Но не хотел меня ждать. Через час уехал.  
 だが 私を待ちたくない.PAST.M.SG 1時間後に 去る.PAST.M.SG  
 Bet nenorėjo manęs laukti, po valandos išvažiavo.  
 だが 私を待ちたくない.PAST.3 1時間後に 去る.PAST.3

‘彼は昨日私たちのところに 来ていた。だが、私を待ちたくなくて、1時間後に去った。’

#### 4.3.2. 〈経験・不定〉のパーフェクト

〈経験・不定〉のパーフェクトは、ロシア語では不完了体動詞（非限界動詞）によって表される（伝統的にはいわゆる〈一般的事実〉の意味に含まれる）。リトアニア語では非限

界動詞のパーフェクト形あるいは単純過去形を用いる。共起するのは、より不定的な時間を表す状況語である。例文(22), (23)を参照。

- (22) Russ. Он когда-то жил там,  
 彼3M.SG.NOM かつて 住む.PAST.M.SG そこに
- Lith. Jis kažkada {yra}gyvenęs / gyveno} ten,  
 彼3M.SG.NOM かつて [be] 住む.PRES.PF.3.M.SG / PAST.3 そこに
- но был маленький и даже не помнит своего дома.  
 だが be.PAST.M.SG 小さい そして さえ 覚えていない.PRES.3SG 自分の家.GEN
- bet buvo mažas ir net neatsimena savo namo.  
 だが be.PAST.3 小さい そして さえ 覚えていない.PRES.3 自分の家.GEN
- ‘彼はかつてそこに住んだことがあるが, 小さかったので自分の家さえ覚えていない。’

- (23) Russ. Он когда-то слышал эту песню,  
 彼3M.SG.NOM かつて 聴く.PAST.M.SG この歌.ACC
- Lith. Jis kažkada {buvo girdėjęs / girdėjo} šią dainą,  
 彼3M.SG.NOM かつて be 聴く.PAST.PF.3.M.SG / PAST.3 この歌.ACC
- но не мог вспомнить ее название.  
 だが 思い出せない.PAST.M.SG その題名.GEN
- bet negalėjo atsiminti jos pavadinimo.  
 だが 思い出せない.PAST.3 その題名.GEN
- ‘彼はかつてこの歌を聴いたことがあったが, その題名が思い出せなかった。’

#### 4.4. 相対的テンス

リトアニア語のパーフェクト形は、従属節において〈先行性〉を表す相対的テンスとして用いられることがある。ロシア語ではいずれも一般的な過去形が用いられる。例文(24), (25)を参照。

- (24) Russ. Он ест то, что принес  
 彼3M.SG.NOM 食べる.PRES.3SG ものを 持って来る.PAST.M.SG
- Lith. Jis valgo tai, ką {yra} atsinešęs / atsinešė  
 彼3M.SG.NOM 食べる.PRES.3 ものを [be] 持って来る.PRES.PF.3.M.SG / PAST.3
- из дома.  
 家から

iš namų.

家から

‘彼は家から持って来たものを食べている.’

(25) Russ. Он ел то, что принес

彼.3M.SG.NOM 食べる.PAST.M.SG ものを 持って来る.PAST.M.SG

Lith. Jis valgė tai, ką {buvo atsinešęs / atsinešė}

彼.3M.SG.NOM 食べる.PAST.3 ものを be 持って来る.PAST.PF.3.M.SG / PAST.3

из дома.

家から

iš namų.

家から

‘彼は家から持って来たものを食べていた.’

#### 4.5. 動作の表示

非パーフェクトの単純過去形の基本的な意味である。リトアニア語のパーフェクト形は、孤立発話において単なる動作の意味をもつことがある。例文(26)を参照。

(26) Russ. Ой, какую машину купил наш сосед!

まあ なんとという車.ACC 買う.PAST.M.SG 私たちの隣人.NOM

Lith. Oi, kokią mašiną {yra nusipirkęs / nusipirkę} mūsų kaimynas!

まあ なんとという車.ACC [be] 買う.PRES.PF.3.M.SG / PAST.3 私たちの隣人.NOM

‘まあ、なんとという車を私たちの隣人は買ったことか!’

だが、連鎖的・順次的に生起する場面を表すときは、ふつうパーフェクト形は用いられない。例文(27)を参照。

(27) Russ. Он закрыл окно, задернул занавески

彼.3M.SG.NOM 閉める.PAST.M.SG 窓.ACC 閉じる.PAST.M.SG カーテン.ACC

Lith. Jis uždarė langą, užtraukė užuolaidas

彼.3M.SG.NOM 閉める.PAST.3 窓.ACC 閉じる.PAST.3 カーテン.ACC

и заснул.

そして 眠り込む.PAST.M.SG

ir užmigo.

そして 眠り込む.PAST.3

‘彼は、窓を閉め、カーテンを閉じて、眠り込んだ。’

#### 4.6. まとめ

ロシア語とリトアニア語におけるパーフェクトの表現を図示すると、図1のようになる。

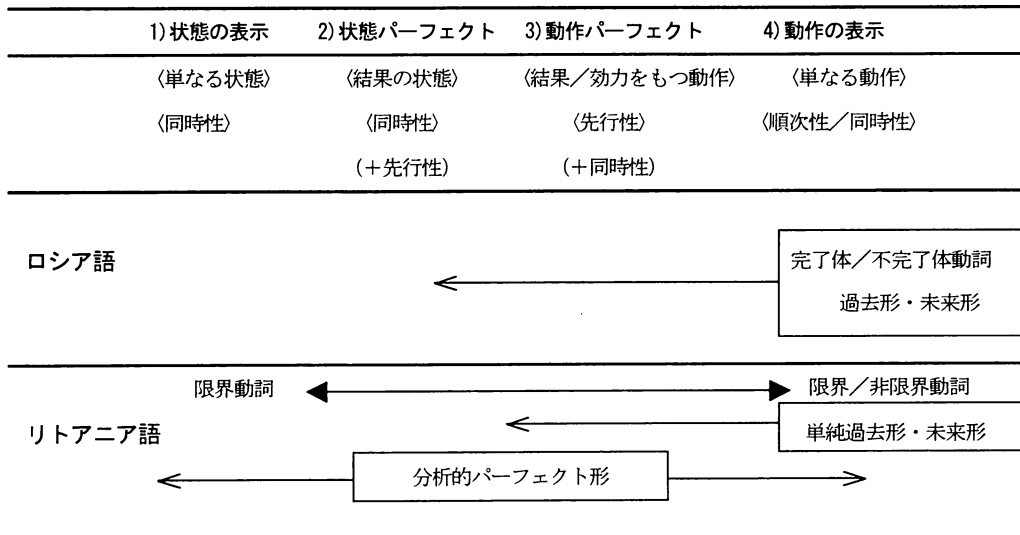


図1：ロシア語とリトアニア語におけるパーフェクトの表現

いずれの言語でも、3)の〈結果〉のパーフェクトより左側に呈示された意味は、動詞の語彙的な〈限界性〉と結びついている。

#### 5. リトアニア語アンケート調査

図1に示したように、リトアニア語では、パーフェクトの意味を表すために、単純テンス形も用いられる。では、具体的にはどのような場合に、どの程度の容認度で、パーフェクト形の代わりに単純テンス形が用いられるのだろうか。従来のリトアニア語研究では、この点については全く言及されていない。そこで、ここでは、筆者が2008年から2009年にかけて行ったアンケート調査で得たデータに基づき、現在および過去のパーフェクト形と単純過去形の使用分布について分析を試みる。

アンケート調査の概要は以下の通りである。

##### a) アンケート回答者

リトアニア人272名（うち、10代53名、20代29名、30代30名、40代48名、50代32名、60代38名、70代31名、80代11名）

b) アンケート回答者に関する質問項目

氏名, 生年, 年齢, 出身地, おもな居住地, 現在の居住地, 両親の出身地とおもな居住地, 職業, 他国語の能力 (習得度を4段階で示す)

c) 主な構成

限界/非限界動詞との組み合わせの観点から, ①過去形と習慣過去形 (28問 60文), ②パーフェクト各形と単純テンス各形 (78問 435文), ③現在形と未来形 (35問 150文) それぞれの使い分けに関する質問, および, ④その他の質問 (31問 120文) (計 172問 765文)

d) 回答方法

示された例文について容認度を記号で記入する. 容認度の尺度は, 「きわめて自然 (++)」, 「自然 (+)」, 「不自然 (?)」, 「きわめて不自然 (??)」, 「容認できない (\*)」の5段階である (回答者には, 「日常生活で一般的に用いている表現」を基準に文の容認度を回答するように依頼した).

アンケートを依頼したのは, 両親がともにリトアニア語を母語とするリトアニア人である. 調査地は, Vilnius, Panevėžys, Kaunas の3都市である. Vilnius はリトアニア共和国の首都であり, Panevėžys は Vilnius の北およそ 145Km, Kaunas は Vilnius の西およそ 103Km にある. これら3つの都市はいずれもリトアニアの標準語が話される高地地方に位置しており, 若干の方言差はあるものの, 今回の調査内容に関しては大きな相違点は認められなかった. アンケート回答者の出身地およびおもな居住地は上の調査地に限らないが, 標準語と大きく異なる方言が話されている地方の出身者にはアンケートを依頼していない. 方言間の相違は興味深い問題であるが, この点についてはまた別な機会に調査することにした.

## 6. リトアニア語のパーフェクト形と単純過去形の使用分布

この章では, 4章で挙げた例に関するアンケート調査の結果のデータを示しながら, リトアニア語のパーフェクト形と単純過去形の使用分布の分析を行うことにする. 容認度については, 「きわめて自然 (++)」, 「自然 (+)」, 「不自然 (?)」, 「きわめて不自然 (??)」, 「容認できない (\*)」の5段階を括弧内の記号で表す. 表の中の数値は回答者の数である.

まず, 単なる状態を表す場合, リトアニア語ではパーフェクト形が用いられる. 例文(15), (16)のように, パーフェクト形を単純過去形に置換した文に対しては, 不自然あるいは容認できないという回答者が多い.



- (15) Jis per daug dirba, todėl toks  
 彼.3M.SG.NOM あまりに沢山 働く.PRES.3 だから あんなに.PRO.M.SG.NOM  
 liesas, {[yra] išbales / išbalo}.

やせている.ADJ.M.SG.NOM [be] 青ざめる.PRES.PF.3.M.SG / PAST.3

‘彼はあまりに沢山働いている，だからあんなにやせて，青ざめている.’

[yra] išbales (PRES.PF)					išbalo (PAST)				
++	+	?	??	*	++	+	?	??	*
228	44	0	0	0	2	14	75	24	157
84%	16%	0%	0%	0%	1%	5%	28%	9%	58%

- (16) Pažiūrėk, koks jis jau senas ir  
 見なさい どんなに 彼.3M.SG.NOM すでに 老いた.ADJ.M.SG.NOM そして

{[yra] pavargęs / pavargo}.

[be] 疲れる.PRES.PF.3.M.SG / PAST.3

‘見なさい，彼がすでにどんなに老いて疲れているか.’

[yra] pavargęs (PRES.PF)					pavargo (PAST)				
++	+	?	??	*	++	+	?	??	*
230	42	0	0	0	0	1	57	26	188
85%	15%	0%	0%	0%	0%	0%	21%	10%	69%

また，状態パーフェクトを表す場合，例文(17)のように，現在パーフェクト形を単純過去形に置換した文に対しても，自然であるという評価を下した回答者が多い。だが，例文(18)のように，過去パーフェクト形を単純過去形に置換した文に対しては，不自然あるいは容認できないという回答者が多い。

- (17) Jis jau seniai {[yra] miręs / mirė}.

彼.3M.SG.NOM すでにずっと前から [be] 死ぬ.PRES.PF.3.M.SG / PAST.3

‘彼はすでにずっと前から死んでいる.’

[yra] miręs (PRES.PF)					mirė (PAST)				
++	+	?	??	*	++	+	?	??	*
140	100	21	3	8	106	129	26	2	9
51%	37%	8%	1%	3%	39%	47%	10%	1%	3%

- (18) Kai aš pagaliau grįžau į Vilnių,  
 ~時 私.1SG.NOM ついに 帰る.PAST.1SG ヴィリニユスに

jis jau {buvo miręs / mirė}.

彼.3M.SG.NOM すでに be 死ぬ.PAST.PF.3.M.SG/PAST.3

‘私がついにヴィリニユスに帰った時、彼はすでに死んでいた。’

buvo miręs (PAST.PF)					mirė (PAST)				
++	+	?	??	*	++	+	?	??	*
211	58	2	0	1	8	21	88	29	126
78%	21%	1%	0%	0%	3%	8%	32%	11%	46%

これに対し、動作パーフェクトを表す場合には、例文(20')のように、パーフェクト形よりも単純過去形の方が自然であるとする回答者が多い。ただし、例文(19')のように、〈結果〉のパーフェクトの場合で、先行する動作の結果の状態が顕在的であるときには、パーフェクト形の容認度が高くなる。

(19') Jis { [yra] užtraukęs / užtraukė } užuolaidas,  
 彼.3M.SG.NOM [be] 開める.PRES.PF.3.M.SG/PAST.3 カーテン.ACC  
 matyt, miega.

たぶん 眠る.PRES.3

‘彼はカーテンを閉めている、たぶん眠っているのだ。’

[yra] užtraukęs (PRES.PF)					užtraukė (PAST)				
++	+	?	??	*	++	+	?	??	*
112	97	41	7	15	88	111	41	8	24
41%	36%	15%	3%	6%	32%	41%	15%	3%	9%

(20') A: - Ar Tomas ir Ona yra?

～かトマス.M.SG.NOM と オナ.F.SG.NOM be.PRES.3

B: - Taip, Tomas { [yra] atėjęs / atėjo } jau prieš valandą.

うん トマス.M.SG.NOM [be] 来る.PRES.PF.3.M.SG/PAST.3 すでに 1時間前に

Jis dabar [yra] mano kambaryje.

彼.3M.SG.NOM 今 [be.PRES.3] 私の部屋に

O Ona atėjo ką tik.

それで オナ.F.SG.NOM 来る.PAST.3 たった今

A: ‘トマスとオナはいる?’

B: ‘うん、トマスはもう 1時間前に来ている。彼は今、私の部屋にいる。それで、オナはたった今来たばかりだ。’

[yra] atėjęs (PRES.PF)					atėjo (PAST)				
++	+	?	??	*	++	+	?	??	*
74	119	43	14	22	197	70	4	0	1
27%	44%	16%	5%	8%	72%	26%	1%	0%	0%

また、継続した結果の状態が中断したということを表す場合には、過去パーフェクト形の方が単純過去形よりも容認度が高い。

(21') Jis {buvo atvažiuoęs / atvažiuo} pas mus vakar.

彼.3M.SG.NOM be 来る.PAST.PF.3.M.SG / PAST.3 私たちのところに 昨日

Bet nenorėjo manęs laukti, po valandos išvažiuo.

だが 私を待ちたくない.PAST.3 1時間後に 去る.PAST.3

‘彼は昨日私たちのところに来ていた。だが、私を待ちたくなくて、1時間後に去った。’

buvo atvažiuoęs (PAST.PF)					atvažiuo (PAST)				
++	+	?	??	*	++	+	?	??	*
190	64	5	5	8	110	131	17	4	10
70%	24%	2%	2%	3%	40%	48%	6%	1%	4%

〈経験・不定〉のパーフェクトを表す場合には、例文(22')のように、パーフェクト形よりも単純過去形を用いる方が自然であるとする回答者が多い。ただし、例文(23')のように、過去パーフェクトの場合には、パーフェクト形の容認度が比較的高い。

(22') Jis kažkada {[yra]gyvenęs / gyveno} ten,

彼.3M.SG.NOM かつて [be] 住む.PRES.PF.3.M.SG / PAST.3 そこに

bet buvo mažas ir net neatsimena savo namo.

だが be.PAST.3 小さい そして さえ 覚えていない.PRES.3 自分の家.GEN

‘彼はかつてそこに住んだことがあるが、小さかったので自分の家さえ覚えていない。’

[yra] gyvenęs (PRES.PF)					gyveno (PAST)				
++	+	?	??	*	++	+	?	??	*
94	126	27	8	17	168	98	6	0	0
35%	46%	10%	3%	6%	62%	36%	2%	0%	0%

- (23') Jis kažkada {buvo girdėjęs / girdėjo} šią dainą,  
 彼.3M.SG.NOM かつて be 聴く.PAST.PF.3.M.SG / PAST.3 この歌.ACC  
 bet negalėjo atsiminti jos pavadinimo.  
 だが 思い出せない.PAST.3 その題名.GEN  
 ‘彼はかつてこの歌を聴いたことがあったが、その題名が思い出せなかった.’

buvo girdėjęs (PAST.PF)					girdėjo (PAST)				
++	+	?	??	*	++	+	?	??	*
144	96	21	4	7	120	129	15	0	8
53%	35%	8%	1%	3%	44%	47%	6%	0%	3%

従属節において主動詞の現在形に対する相対的な〈先行性〉を表す場合、例文(24')のように、現在パーフェクト形と単純過去形の容認度に大きな差はない。それに対して、主動詞の過去形に対する〈先行性〉を表す場合、例文(25')のように、過去パーフェクト形の方が自然であるとする回答者が多い。

- (24') Jis valgo tai, ką {[yra] atsinešęs / atsinešė} iš namų.  
 彼.3M.SG.NOM 食べる.PRES.3 ものを [be] 持って来る.PRES.PF.3.M.SG / PAST.3 家から  
 ‘彼は家から持って来たものを食べている.’

[yra] atsinešęs (PRES.PF)					atsinešė (PAST)				
++	+	?	??	*	++	+	?	??	*
120	110	33	4	5	119	125	15	2	11
44%	40%	12%	1%	2%	44%	46%	6%	1%	4%

- (25') Jis valgė tai, ką {buvo atsinešęs / atsinešė} iš namų.  
 彼.3M.SG.NOM 食べる.PAST.3 ものを be 持って来る.PAST.PF.3.M.SG / PAST.3 家から  
 ‘彼は家から持って来たものを食べていた.’

buvo atsinešęs (PAST.PF)					atsinešė (PAST)				
++	+	?	??	*	++	+	?	??	*
180	79	8	2	3	99	144	21	2	6
66%	29%	3%	1%	1%	36%	53%	8%	1%	2%

単なる動作を表す場合には、例文(20'), (26')のように、単純過去形の方が、パーフェクト形よりも自然であるという判断を下した回答者が多い。

- (20) O Ona {[yra] atėjės / atėjo} ką tik.  
 それで オナ.F.SG.NOM [be] 来る.PRES.PF.3.F.SG/PAST.3 たった今  
 ‘それで、オナはたった今来たばかりだ.’

[yra] atėjės (PRES.PF)					atėjo (PAST)				
++	+	?	??	*	++	+	?	??	*
25	94	70	35	48	217	54	1	0	0
9%	35%	26%	13%	18%	80%	20%	0%	0%	0%

- (26) Oi, kokią mašiną {[yra] nusipirkęs / nusipirko} mūsų kaimynas!  
 まあ なんという車.ACC [be] 買う.PRES.PF.3.M.SG/PAST.3 私たちの隣人.NOM  
 ‘まあ、なんという車を私たちの隣人は買ったことか!’

[yra] nusipirkęs (PRES.PF)					nusipirko (PAST)				
++	+	?	??	*	++	+	?	??	*
21	98	92	26	35	220	52	0	0	0
8%	36%	34%	10%	13%	81%	19%	0%	0%	0%

とくに、連鎖的・順次的に生起する場面を表すときは、例文(27)のように、パーフェクト形の容認度は低い。

- (27) Jis {[yra] uždaręs / uždarė} langą,  
 彼.3M.SG.NOM [be] 開める.PRES.PF.3.M.SG/PAST.3 窓.ACC  
 {[yra] užtraukęs / užtraukė} užuolaidas ir užmigo.  
 [be] 閉じる.PRES.PF.3.M.SG/PAST.3 カーテン.ACC そして 眠り込む.PAST.3  
 ‘彼は、窓を閉め、カーテンを閉じて、眠り込んだ.’

[yra] uždaręs, [yra] užtraukęs (PRES.PF)					uždarė, užtraukė (PAST)				
++	+	?	??	*	++	+	?	??	*
0	14	90	34	134	220	52	0	0	0
0%	5%	33%	13%	49%	81%	19%	0%	0%	0%

以上のように、本章では、アンケート調査のデータから、リトアニア語における現在および過去のパーフェクト形と単純過去形の使用分布について分析した。分析の結果は、表4のようにまとめられる。

表 4：リトアニア語のパーフェクト形と単純過去形の使用分布

	現在パーフェクト	過去パーフェクト
1) 状態の表示	パーフェクト形	
2) 状態パーフェクト	パーフェクト形が優勢	パーフェクト形が優勢
3) 動作パーフェクト	単純過去形が優勢	
4) 動作の表示	単純過去形が優勢	

## 7. まとめと展望

本稿では、まず、ロシア語との比較対照によって、リトアニア語のAspectとパーフェクトの特徴を明らかにした。さらに、アンケート調査に基づき、リトアニア語における、現在および過去の分析的なパーフェクト形と単純過去形の使用分布を分析した。分析の結果として、リトアニア語では、状態性を表す場合にはパーフェクト形の方が用いられ、動作性を表す場合には単純過去形が用いられる傾向にあることを明らかにした。また、リトアニア語の過去パーフェクト形は、現在パーフェクト形と比較すると、動作性の表現にもより広く用いられることも指摘した。

さらに、考察の中では触れなかったが、リトアニア語のアンケート調査の結果を年齢別にみると、10代と20代は、それ以上の世代に比べて、パーフェクト形をより好んで用いる傾向が認められる。パーフェクト形が現在あらたな文法化のプロセスを迎えつつある可能性もあるが、この点についてはさらに調査・検証する必要がある。今後は、通言語的に仮定される文法化の経路の法則のみならず、ロシア語も含めた他の言語との接触によって生じる変化をも視野に入れ、リトアニア語のテンス・Aspect体系の実態を丹念に観察・記述することを課題としたい。

## 参考文献

- 櫻井映子. 1997. 「リトアニア語のAspectと複合テンスに関する機能意味論的考察」『言語研究』112 : 98-131.
- \_\_\_\_\_. 1999. 「ロシア語とリトアニア語のAspect体系の比較対照—機能意味論的内容における類似と差異をめぐって」『ロシア語ロシア文学研究』31 : 82-97.
- \_\_\_\_\_. 2002. 「バルト語動詞の時間表現—スラヴ語との比較による特徴づけ」『人文』1 : 55-72. 学習院大学.

- \_\_\_\_\_. 2003. 「リトアニア語とロシア語の過去分詞の状況語的（半述語的）機能—相対的時間表現と文の統語構造」『ロシア語ロシア文学研究』35 : 1-10.
- \_\_\_\_\_. 2007. 「リトアニア語の状況語的過去分詞と主動詞の組み合わせ—Aspect性と他動性」角田三枝, 佐々木冠, 塩谷亨編『他動性の通言語的研究』107-120. 東京 : くろしお出版.
- Ambrasas, V. 1984. Dėl lietuvių kalbos veiksmažodžio morfologinių kategorijų. *Baltistica* 20 (2): 100-110.
- \_\_\_\_\_. 1990. *Sravnitel'nyj sintaksis pričastij baltiškix jazykov*. Vilnius: Mokslas.
- Bondarko, A. V. 1987. Vvedenie. Osnovanija funkcional'noj grammatiki. In: *Teorija funkcional'noj grammatiki. Vvedenie. Aspektual'nost'. Vremennaja lokalizovannost'. Taksis*. Leningrad: Nauka.
- \_\_\_\_\_. 1996. *Problemy grammatičeskoj semantiki i russkoj aspektologii*. St Petersburg: Izdatel'stvo Sankt-Peterburgskogo universiteta.
- Bybee, J., R. Perkins & W. Pagliuca. 1994. *The Evolution of Grammar: tense, aspect, and modality in the languages of the world*. Chicago: The University of Chicago Press.
- Comrie, B. 1976. *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Dahl, Ö. 1981. On the definition of the telic-atelic (bounded-nonbounded) distinction. In: Ph. J. Tedeschi & A. Zaenen (eds.) *Tense and aspect / Syntax and Semantics* 14: 79-90. New York: Academic Press.
- \_\_\_\_\_. 1985. *Tense and Aspect systems*. Oxford/New York: Basil Blackwell.
- Dambriūnas, L. 1960. *Lietuvių kalbos veiksmažodžių aspektai*. Boston: Lietuvių enciklopedijos leidykla.
- DLKG: V. Ambrasas (ed.) 1994. *Dabartinės lietuvių kalbos gramatika*. Vilnius: Mokslo ir enciklopedijų leidykla.
- Galnaitytė, E. 1963. Osobennosti kategorii vida glagolov v litovskom jazyke (v sopostavlenii s russkim jazykom). *Kalbotyra* 7: 123-143.
- Geniušienė, E. Š. 1990. Perfekt i vid v litovskom jazyke. In: V. S. Xrakovskij (ed.) *Tipologija i grammatika*, 135-140. Moscow: Nauka.
- Geniušienė, E. Š. & V. P. Nedjalkov. 1988. Resultative, passive, and perfect in Lithuanian. In: V. P. Nedjalkov (ed.) *Typology of resultative constructions*, 369-386.
- Hewson, J. & V. Bubenik. 1997. *Tense and aspect in Indo-European languages (Theory, typology, diachrony)*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.

- Holvoet, A. & V. Čížik 2004. Veikslo priešpriešos tipai. In A. Holvoet & L. Semėnienė (eds.) *Gramatinių kategorijų tyrimai*, 141-162. Vilnius: Lietuvių kalbos institutas.
- Holvoet, A. & L. Semėnienė (eds.) 2004. *Gramatinių kategorijų tyrimai*. Vilnius: Lietuvių kalbos institutas.
- Jakobson, R. 1957. Shifters, verbal categories, and the Russian verb. In: *Selected writings* vol.2, 130-147. The Hague/Paris: Mouton.
- Lehman, Ch. 1994. Predicates: aspectual types. In: R. E. Asher et al. (eds.) *The Encyclopedia of Language and Linguistics*, vol. 6, 3297-3302. Oxford: Pergamon Press.
- LG: V. Ambrazas (ed.) *Lithuanian grammar*. 1997. Vilnius: Baltos lankos.
- LKG: K. Ulvydas (ed.) *Lietuvių kalbos gramatika*. vol.2. 1971. Vilnius: Mintis.
- Maslov, Ju. S. 1962. Voprosy glagol'nogo vida v sovremennom zarubežnom jazykoznanii. In: Ju. S. Maslov (ed.) 1962. *Voprosy glagol'nogo vida*, 7-32. Moscow: Izdatel'stvo inostranoj literatury.
- \_\_\_\_\_. 1978. K osnovanijam sopostavitel'noj aspektologii. In: Ju. S. Maslov (ed.) *Voprosy sopostavitel'noj aspektologii*, 4-44. Leningrad: Nauka.
- \_\_\_\_\_. 1984. Ob osnovnyx ponjatijax aspektologii. In: *Očerki po aspektologii*, 5-47. Leningrad: Izdatel'stvo Leningradskogo universiteta.
- Musteikis, K. 1972. *Sopostavitel'naja morfologija rusckogo i litovskogo jazykov*. Vilnius: Mintis.
- Nedjalkov, V. P. (ed.) 1988. *Typology of resultative constructions*. Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.
- Padučeva, E. V. 1996. *Semantičeskie issledovanija (Semantika vremeni i vida v rusckom jazyke; Semantika narrativa)*. Moscow: Jazyki rusckoj kul'tury.
- Paulauskienė, A. 1979. *Gramatinės lietuvių kalbos veiksmožodžio kategorijos*. Vilnius: Mokslas.
- Russkaja grammatika*, tom 1-2. 1979. Praha: Academia.
- Russkaja grammatika*, tom 1-2. 1980-82. Moskva: Nauka.
- Safarewicz, J. 1967. Stan badań nad aspektem czasownikowym w języku litewskim. In: *Safarewicz J. Studia językoznawcze*, 339-361. Warszawa: Państwowe Wydawnictwo Naukowe.
- Sakurai, E. 2008. Combination of past participles functioning as adverbials with main verbs in Lithuanian: Aspect and transitivity. *Acta Linguistica Lithuanica* 59: 81-108. Vilnius: Lietuvių kalbos institutas.
- Schuyt, R. 1990. *The morphology of Slavic verbal aspect: A descriptive and historical study*. Amsterdam/Atlanta: Rodopi.
- Senn, A. 1949. Verbal aspects in Germanic, Slavic, and Baltic. *Language* 25(4): 402-409.



- Sližienė, N. 1969. Sudurtinių atliktinių veiksmažodžio laikų reikšmės ir vartojimas. *Lietuvių kalbotyros klausimai* 11: 19-40.
- \_\_\_\_\_. 1995. The tense system of Lithuanian. In: R. Thieroff (ed.) *Tense systems in European languages* vol. 2, 215-232. Tübingen: Max Niemeyer Verlag.
- Stang, Chr. S. 1942. *Das slavische und baltische Verbum*. Oslo: Jacob Dybwad.
- Thelin, N. B. 1978. *Toward a theory of aspect, tense and actionality in Slavic*. Stockholm: Almqvist & Wiksell International.
- Thieroff, R. & J. Ballweg (eds.) 1994-95. *Tense systems in European languages*. vol. 1-2. Tübingen: Max Niemeyer Verlag.
- Wiemer, B. 2001. Aspektual'nye paradigmy i leksičeskoe značenie russkix i litovskix glagolov (Opyt sopostavlenija s točki zrenija leksikalizacii i gramatikalizacii). *Voprosy jazykoznanija* 2001-2002, 26-58.

Aspect and Perfect in Lithuanian:  
Based on the Contrastive Aspectology with Russian

Eiko SAKURAI

This paper reviews the traditional interpretations of the Lithuanian verbal aspect and points out some remaining problematic issues. In light of the conclusions made in my previous studies, I am going to provide some observations about the aspectual properties of Lithuanian verbs and the basic tense-aspect system in Lithuanian. Further, I am going to explain the functional-semantic content of the so-called analytical perfect forms (copula verb *būti* + adjectival past participles in the nominative case) by observing how this content relates to the <telic/atelic (bounded/nonbounded)> meanings constituting the core of the Lithuanian verbal aspect.

By regularly referring to the contrastive analysis with Russian, I will try to go beyond the already existing interpretations and to give a more comprehensive explanation of the meanings and functions of the perfect forms on the basis of the existing interrelation among the elements of taxis, aspect and tense. Moreover, for the first time in Lithuanian linguistic studies to date, this study will offer the analysis of the differences in the usage area of simple past forms and analytical perfect forms. The analysis is based on the results of the questionnaire survey which I conducted in Lithuania in 2008-2009.